

研究報告) ドンキーミル・アートセンターにおける 現代木版画デモンストレーションの報告

Report on woodblock print demonstration at Donkeymill art center

栗本佳典¹⁾

抄録

日本とは異なる文化圏である、ハワイ島のアートセンターで現代木版画のデモンストレーションを行った。アートセンターの詳細、および伝統的木版画技法と現代木版画技法との違いの説明等について報告する。

キーワード: 木版画 和紙 油性インク プレス機 アートセンター

I. はじめに

5月の連休に、ハワイ島にあるドンキーミル・アートセンターで自作木版画制作のデモンストレーションを行った。自作品の紹介を行った後、版木の作成方法や使用する材料、機材の説明をするとともに、版を刷る工程を実演した。

II. ドンキーミル・アートセンター

ドンキーミル・アートセンターはハワイ島のホルアロアという小さな町にある。ハワイ島は、ホノルルなどがあるオアフ島と異なり、市街地も小規模で大自然に囲まれた島として存在している。ホルアロアは移住した日系人に縁が深く、古くから日本の寺院なども建てられている。現在はUCCやドトールといった日本企業が持つコーヒー農園や、日系人のコーヒー農園が点在している。また、古い建物を利用したアートギャラリーが多く並んでおり、ホルアロアの観光スポットとなっている。

ドンキーミル・アートセンターは、ホルアロアの国道沿いにあり、アトリエや版画スタジオ、陶芸スタジオ、ギャラリーなどで構成された複合施設となっている(写真1、2)。作品の展示に加え、さまざまなアーティストによるワークショップや公開制作、デモンストレーションが盛んに行われ、アメリカ本土や外国からも多くの方が訪れる施設である。2017年には、国際木版画協会が主催する「第3回国際木版画会議」がドンキーミル・アートセンターおよびホノルルのハワイ大学で開催された。

私の妻が、国際木版画協会の依頼で約1か月間、このアートセンターで木版画のワークショップやデモ

ンストレーションを行うことに合わせ、私も5月の連休にデモンストレーションを行うことになった。宿泊はアートセンターのオーナーが持つアーティスト用の滞在施設を無料で使わせていただいた。ホルアロアは標高が500メートルほどの山の中腹にあり、夜はハワイとは思えないほど少し寒いくらいであった。

アートセンターの庭では、楮(コウゾ)という和紙の原料となる植物が育てられており、それを使った和紙の作成も行われている。和紙の作成には、繊維を均一にして厚みを調整する役割として「ネリ」と呼ばれる材料が加えられる。日本では「ネリ」の材料としてトロロアオイの根から取れる液体が使われるが、アートセンターではハイビスカスの茎から取れる液体が使われ、同様の効果を得ている。

III. 事前打ち合わせ

5月3日、デモンストレーションの進行について打ち合わせを行い、同時に使用する道具類の確認作業を行った。事前にアートセンターのプレス機を使用することは決めていたが、その他必要となるインク練りヘラ、インク練り台、クリーナーオイル等について確認作業を行った。それら以外の道具である木版画用油性インク、和紙、作成した版木は持参した。

IV. デモンストレーション

5月4日、まず初めに自作の木版画を10数点並べ、テーマや版の作成方法について解説を行った(デモンストレーション写真1)。実演で使用した作品は、「発芽」というタイトルで、画面の下側が彫りを利用した部分、上側が紙版画を利用した部分となっている(作品写真)。木版画は、版木の凹凸を利用して作品を刷る凸版であるが、紙版画の場合は、木を彫る代わりに紙を貼り付けて高低差を作り出す。私の場合は、シナ

1) KURIMOTO Yoshinori

山野美容芸術短期大学

連絡先: 〒192-0396 東京都八王子市鎌水 530

ベニヤ板を土台にして、その上に切り抜いた薄い紙を木工ボンドで貼り付けて版を作成する。

刷りを始める前に、プレス機の圧力を調整した（デモンストレーション写真2）。アートセンターのプレス機は、欧米で長い歴史のある銅版画に使われる「エッチングプレス機」と呼ばれるもので、凹版である銅版画を刷るために強力な圧力をかけることができる。私が普段使っているプレス機は、エッチングプレス機を軽量化して凸版である木版画専用に製造された「木版画プレス機」というもので、中程度の圧力しかかけられない。そのため、最適な圧力を得るための調整に苦労した。

圧力の確認を行った後は、刷る油性インクの色で作成である。基本色を混色して必要な色を5色作り出した（デモンストレーション写真3）。下の部分に2版2色、上の部分に2版2色を順に従って刷りを行った。

最後に上の部分の2版目の版木に着いたインクをクリーナーオイルでふき取り、同じ版に異なる色を乗せて同じ部分に重ねて刷った。つまり、上の部分は2版3色となる。この時、プレス機の圧力をやや弱く調整して重ねて刷るのだが、圧力の強弱によってインクの紙に着く範囲が少し異なり、それが色彩の表情となって表れる。

すべて刷り終わった後、私の技法と伝統的な木版画技法との違いや、銅版画技法との違いについて質問をいただいた。伝統的な木版画技法では、和紙に水彩絵の具を用いてバレンを使って手で刷る。銅版画技法では、洋紙に油性インクを用いてエッチングプレス機を使って刷る。私の技法は、和紙や版木を使う点では伝統的な木版画技法であり、油性インクやプレス機を使う点では銅版画技法である。それぞれの特徴を自分なりに融合して制作していることを説明した。

普段、当センターで扱われる木版画は、ほとんどが伝統的な木版画技法であるため、私の技法を初めて目にした方が多かった。日本には木版画家が多く、伝統的な技法を駆使する作家もいれば、さまざまな技法を取り入れ独自の表現方法を生み出している作家もいる。それが日本の現代木版画の状況であることも加えて説明した。

V. ファーストフライデー

5月5日、ホルアロアのギャラリーを中心に毎月第一金曜日に開催されるファーストフライデーというイベントを見学した。このイベントはアートだけでなく、音楽やフードも提供され、普段ギャラリーに縁のない人も気軽に参加できるイベントとなっている。

私の宿泊施設はアートセンターから少し離れているが、宿泊室の階上がギャラリーになっており、朝から天井を通して見学者の歩く音が聞こえてきた。階上のギャラリーではアートセンターに関係のある絵画作品や立体作品が展示されていた。イベントには美術作品を展示するギャラリーだけでなく、ウクレレやハワイの伝統工芸品を展示するギャラリーなども参加し、ハワイの文化に触れる機会にもなっている。

VI. 最後に

ハワイ島は日本とは異なる文化圏であるが、日系人の文化が根づいており、どこか懐かしいような不思議な感覚であった。デモンストレーションでは、私の木版画技法とその他の版画技法の共通点や違いについて説明することで、版画表現の多様性や魅力を理解していただけたと思う。版画一つを見ても、その国独自のもの、他の国と融合したものがあり、その結果として新しいものが生まれていることを改めて実感した。

国際木版画会議について

第1回国際木版画会議（2011年、京都・淡路）

京都芸術センター

淡路市長沢アートパーク

第2回国際木版画会議（2014年、東京）

東京藝術大学

第3回国際木版画会議（2017年、ハワイ）

ホノルル大学

ドンキーミル・アートセンター

第4回国際木版画会議（2021年、奈良）

奈良県春日野国際フォーラム IRAKA

参考文献

- 1) 牧野浩紀 絵画として確立した水溶性絵の具を用いた木版画表現から考察する 桜美林大学研究紀要 2021年 p164-180
- 2) 国際木版画協会 国際木版画会議 国際木版画協会日本委員会ウェブサイト <https://mokuhanga.jp/> (2024.1.9)

提出日：2024/1/9



タイトル：『発芽』

サイズ：24×16cm

素材：木版、和紙、油性インク



写真 1



写真 2



デモンストレーション写真 1



デモンストレーション写真 2



デモンストレーション写真 3